

# 栃木県現代俳句協会報

No. 164



第一六四号

発行所

〒331-0016  
小山市扶桑二丁目一〇中村方

栃木県現代俳句協会

発行人

和田 浩一

編集人

松本 登子

令和四年二月二十五日発行

## 新年ご挨拶

栃木県現代俳句協会

会長 和田 浩一



明けましておめでとございます。

昨年はコロナウイルスの感染対策のため、「総会」をはじめ「現代俳句色紙展」「一泊吟行会」「俳句研究会」などの事業を実施出

来ませんでした。

その中でそれぞれの支部で通信句会を実施致しました。

又、会報は予定していた企画を変更して、年間五回、発行致しました。年間五回の発行は現代俳句協会の中では当協会だけでした。

更に全県対象の「通信句会」も関係担当の努力と会員の皆さんの協力により、多数のご参加をいただきました。

会員の皆さんの安全と安心の確保を優先した活動でした。

いま又、オミクロン株の台頭と共にデルタ株のコロナウイルスの感染者も急増しており一月十二日時点で、福田県知事が「レベル2」を宣言され、会食などの自粛が要請されました。

これに伴い、一月十六日に開催を予定していた令和四年度の総会を中止致しました。言うまでもなく、これは栃木に於いては重

症化率の高いデルタ株ウイルスの感染者が多いことから高齢者の多い参加者の安全と安心の確保を優先すべきと考えたからです。

従って、令和四年度の事業計画等については昨年十二月八日の役員会に於いて、承認された議案書の内容による活動を展開させて頂くことに致しました。ご理解の程お願い申し上げます。

今年度は九月十日(出)に開催を予定している「栃木俳句フェスティバル」を中心に事業を推進いたします。

従って例年開催してきた「一泊吟行会」は中止致します。

高齢化と会場確保を考慮した計画を来年度以降検討したいと考えております。

又、五年毎に発行してきたアンソロジーも既に準備をはじめており、ご支援をお願い申し上げます。

(令和四年一月十六日)

以上

# 令和四年度総会決定事項について

事務局長 中村 克子

令和四年度総会は、一月十六日(日)、小山市

小山パレスホテル「彩華」に於いて開催される予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、余儀なく中止と致しました。

それに先立ち、令和三年十二月八日に開催されました役員会において、承認された議決内容及びその報告をもって総会記に代えさせていただきます。

## 記

### 一、報告

- (一) 令和三年度事業報告
  - (二) 令和三年度会計報告
  - (三) 令和三年度監査報告
- 二、議事

- (一) 令和四年度事業計画
- ①総会

(二月十六日(日)小山市小山パレスホテル「彩華」)

新型コロナウイルスの影響により中止

### ②第六十六回俳句研究会(県西支部担当)

- ・日時 三月二十三日(木)
- ・会場 佐野市城山記念館(多目的ホール)
- ・内容 吟行句会

### ③創立三十五周年記念事業

- (俳句フェスティバル)について
- ・日時 九月十日(土)

### ④現代俳句記念色紙展(第三十回)

- ・会場 栃木市 栃木グランドホテル
- ・日時 十一月十九日(土)～二十日(日)
- ・会場 栃木市栃木文化会館大会議室
- ・特別コーナー 「功労者の面影」

### ⑤第十七回通信句会

- ・推進機関 五月～八月
- ・全会員対象の通信句会

・九月十日(土)俳句フェスティバルにて表彰

### ⑥支部句会の推進

・県南支部「昴句会」 毎月第二月曜日

小山市生涯学習センター

・県西支部「三鑫句会」 毎月第二木曜日

佐野市城山記念館

・宇都宮支部「亀の会」 毎月第三土曜日

宇都宮市中央生涯学習センター

・栃木支部「山麓俳句会」 隔月第三水曜日

栃木市民交流センター 楽習館

・上都賀支部「さらら句会」 毎月第二木曜日

日光市南原コミュニティセンター

⑦会報の発行年四回(六四号～一六七号)

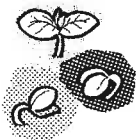
### (二)その他

- ・関東甲信越静ブロック会議への出席
- (現代俳句協会本部図書室)

### ◎栃木県現代俳句協会役員構成

(第十八期後期令和四年度)

- 新任 広報部 中田陽子
- 新任 現代俳句協会理事 中井洋子
- 新任 現代俳句協会名誉会員兼全国大会特別選者 和田浩一



# 新春俳句作品集

\*\*\*\*\*

\*\*\*\*\*

晩節の時間眠らせ黄の銀杏 和田 浩一

誰を待つのか産院の聖樹に灯

石の標本どこかで雪の降る匂ひ 中井 洋子

落葉踏みゆく方角の寂しかり

枯山に枯れる音あり我にもあり 石倉 夏生

信号の点滅が冬霧を呼ぶ

身半分抜けて大根翔ぶ構へ 速水 峰邨

これ以上どう頑張れと冬の贈

平凡に生きて晩年寝正月 須藤火珠男

寒月光洗々少しひびある身

校庭に晩秋という落しもの 中村 克子

軍用機冬青空を傷つけて

オーオーと心に響く合言葉 太田 卯丰

回り道王道窮む近道と

聖堂は島の日時計初景色 小林たけし

バンタナをカチューシャと妻十二月

鏝阿寺の日照雨の寂や花八つ手 日向野初枝

われに寄る犬にわれ寄り日短か

大マスク外し黙食つけて黙 永山 華甲

懸念に翅震はせて雪はんば

古井戸に綿入れ半纏着せてあり 高木 洋子

それぞれが手洗い嗽初日の出

初晴れに囁して母の腕時計 堀 秀子

マスクして「何方」<sup>どなた</sup>と脳の早回転

かぎりなく天地湛える初明り 佐藤 道子

かつて開拓者の私花八つ手

初富士へ七半を駆り風を切り 沼田 満

初富士に向きイルカ三頭大ジャンプ

着ぶくれて矢印探す渋谷駅 遊座 純子

母の忌は晴れとなりそう濃餅汁

木守柿時間を止めているような 増山 ちさ

犬死んで冬空はこんなに青い

校庭の冬を楯円に持久走 佐々木輝美

冬日落ち手に片方の耳飾り

モナリザの瞳の奥に春の色 宇津木玲華

失せ物は何捜し続けて明けの春

点滴の終りに見ゆる冬の虹 水口 圭子

直線は疲れ易くて雁の列

山茶花の白透き通り喪の知らせ 北島 洋子

カタカタカタ冬の足音ついてきて

初空へ肚から叫び「癌完治」 小杉栄美子

よみかきすイーハトーブの雪の夜

熱爛も飲みたくなるわ猫だつて 本間 睦美

羊呼びたつぶり眠る冬至の夜

元日や光差し込む松の幹 青木 廣子

去年今年傘寿の坂を一つ越す

爺婆もLINEに参加お正月 須藤 正之

「自画像」に似て来し兄と日向ぼこ

表には「笑う」と太く初日記 田中 房子

平凡な句に躓きし去年今年

漬物の重しをゆるめ除夜の鐘 和田 璋子

新年の肌着に名前面会日

客の目の動きを追へり菊師の子 中村 國司

団栗のホップステップトタン屋根

冬山を歩くいつしか犬の耳 大竹 照子

なにもかもわかつた貌の枯蝻螂

駅前に溜まる子らいて雪螢 根本菜穂子

墓誌銘の影ふかぶかと寒に入る

木枯に向かつて赤いランドセル 戸田富美子

黒扉に黒猫の溶け漱石忌

焼芋は心の隙間埋めるもの 石川 和子

口紅の減らぬ冬なりコロナ渦

中止

# 第66回俳句研究会のご案内

- ☆期 日 令和4年3月23日(水)
- ☆会 場 佐野市城山記念館
- ☆吟 行 地 佐野城址、市街散策
- ☆投句締切 13時 囁目3句  
(投句と同時に受付、昼食は予め済ませて下さい)
- ☆句 会 13時30分～16時
- ☆会 費 500円

## ◎万葉の里・城山記念館

佐野市若松町504 TEL0283-23-0728

- ・ 県西支部 山野井朝香 TEL0283-85-2039
- ・ 第一事業部 増山ちさ TEL0282-27-1451

※感染症対策 各自

※状況により内容に変更あり

## ◇お知らせ

○石倉 夏生  
 ○根本菜穂子  
 第五十八回現代俳句全国大会で佳作入賞されました。おめでとうございます。

○龍 太一  
 句集出版「HIGH・QUALITY」  
 令和3年11月

○現代俳句協会ホームページ・地区活動欄に各地区の会報が掲載されています。ご覧ください。

○令和3年12月16日(水)、小山市生涯学習センターに於いて、令和3年度第三回役員会が開かれました。

※次号165号の原稿締切りは3月31日です。